

令和3年度の業績

事業の展望と課題

当金庫の営業エリアの中心である横浜市は、令和4年1月1日時点の推計人口が戦後初めて前年同期と比べて減少しました。また、長引く新型コロナウイルス感染症の影響や長期化する低金利環境、競争の激化、不安定な国際情勢、デジタル社会の急速な進展などにより、経営環境の見通しは一層厳しいものになっています。

当金庫では、令和4年度の経営計画においてお客さまや地域社会の成長発展と笑顔あふれる地域づくりへの貢献を目指して、地元事業者を徹底して応援する活動を実施します。創立100周年を控え、金庫一丸となって取り組んでいきます。

中期経営計画ビジョン： 地域の成長と発展に貢献する総合サービス業への進化

基本戦略	戦略1	お客様価値を最大化する営業活動
	戦略2	「職員の成長・活躍」と「組織風土の改革」
	戦略3	経営資源の適正配分による経営基盤の強化

(令和3年4月から令和6年3月まで)

財務諸表

貸借対照表

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現金	18,454	預金積金	2,021,555
預け金	682,284	借入金	185,000
買入金銭債権	23	コールマネー	12,262
金銭の信託	8,649	その他負債	4,698
商品有価証券	386	賞与引当金	963
有価証券	489,491	役員賞与引当金	30
貸出金	1,104,609	退職給付引当金	10,715
外国為替	2,802	役員退職慰労引当金	348
その他資産	12,651	預金払戻引当金	62
有形固定資産	21,559	偶発損失引当金	849
無形固定資産	870	再評価に係る繰延税金負債	1,105
繰延税金資産	2,008	債務保証	1,929
債務保証見返	1,929	負債の部合計	2,239,521
貸倒引当金	△4,141	(純資産の部)	
(うち個別貸倒引当金)	△2,646	出資金	1,743
資産の部合計	2,341,579	利益剰余金	96,325
		処分未済持分	△14
		会員勘定合計	98,054
		その他有価証券評価差額金	5,194
		土地再評価差額金	△1,190
		評価・換算差額等合計	4,003
		純資産の部合計	102,058
		負債及び純資産の部合計	2,341,579

損益計算書

科目	金額
経常収益	25,649
資金運用収益	21,683
役員取引等収益	3,464
その他業務収益	307
その他経常収益	194
経常費用	21,645
資金調達費用	412
役員取引等費用	1,521
その他業務費用	580
経費	18,267
その他経常費用	863
経常利益	4,004
特別利益	6
特別損失	23
税引前当期純利益	3,987
法人税、住民税及び事業税	1,058
法人税等調整額	41
法人税等合計	1,100
当期純利益	2,886
繰越金(当期首残高)	1,035
会計方針の変更による累積的影響額	△67
会計方針の変更を反映した繰越金(当期首残高)	968
当期末処分剰余金	3,855

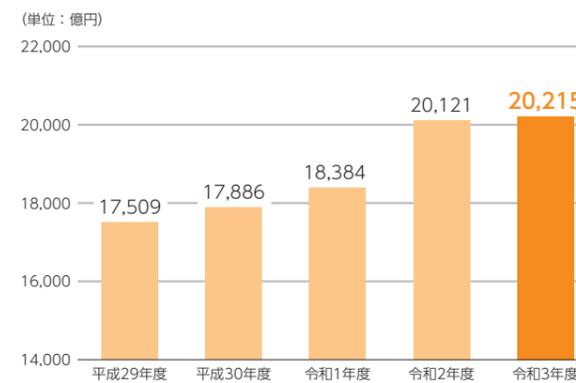
主な経営指標の推移

	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	(単位)
経常収益	26,148,047	26,151,263	25,550,533	26,441,805	25,649,672	千円
経常利益	3,066,216	2,108,714	2,236,293	3,301,635	4,004,441	千円
当期純利益	2,287,045	1,410,098	1,814,894	2,542,162	2,886,871	千円
出資総額	1,849	1,822	1,797	1,772	1,743	百万円
出資者数	73,103	73,138	73,082	73,463	72,777	人
出資総口数	3,595,743	3,541,582	3,481,663	3,417,398	3,458,968	口
純資産額	96,575	99,350	97,020	102,934	102,058	百万円
総資産額	1,880,534	1,918,586	1,965,195	2,299,672	2,341,579	百万円
預金積金残高	1,750,935	1,788,682	1,838,404	2,012,135	2,021,555	百万円
貸出金残高	976,719	1,007,380	1,033,052	1,137,854	1,104,609	百万円
有価証券残高	525,825	491,413	488,597	491,974	489,491	百万円
単体自己資本比率	10.14	9.97	9.72	10.27	10.57	%
職員数	1,244	1,259	1,289	1,269	1,258	人

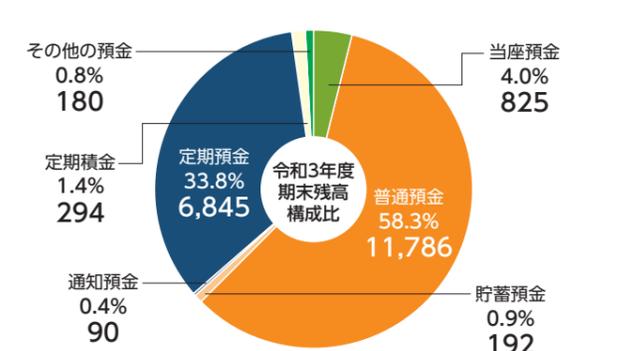
預金積金の状況 ⇒ 期末残高 2兆215億円

期末残高は前年度比94億円増加の2兆215億円となりました。

預金積金残高の推移



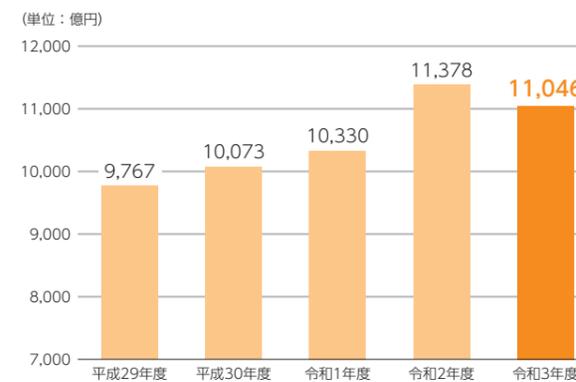
預金積金科目別残高



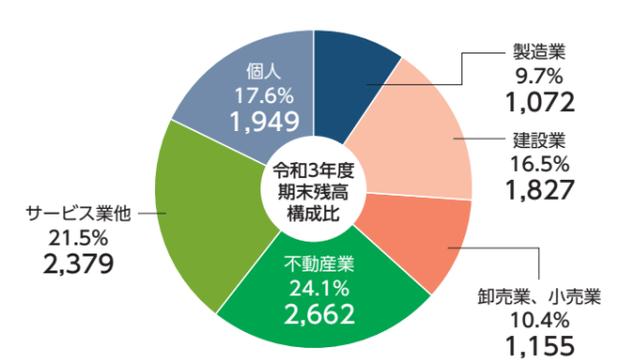
貸出金の状況 ⇒ 期末残高 1兆1,046億円

期末残高は前年度比332億円減少の1兆1,046億円となりました。特定の業種に偏ることなく、バランスのよい貸出を心掛けています。

貸出金残高の推移



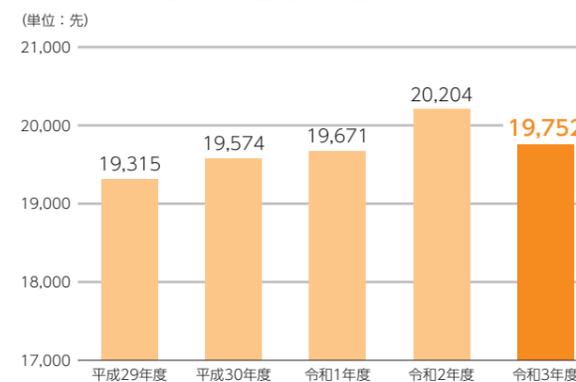
業種別貸出金残高



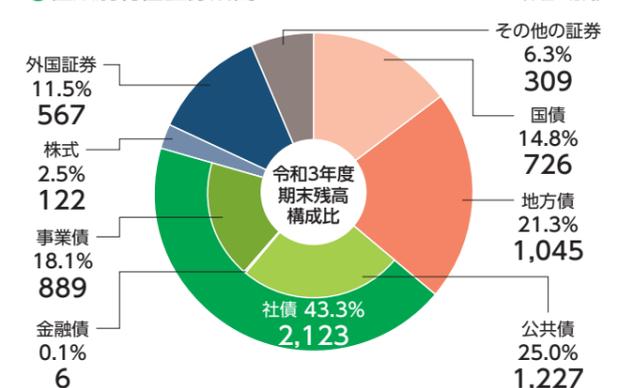
有価証券運用の状況 ⇒ 期末残高 4,894億円

国債、地方債、格付の高い社債等を主な投資対象として、安全性を重視した有価証券運用を行っています。

法人・事業者向け貸出先数の推移



種類別有価証券残高



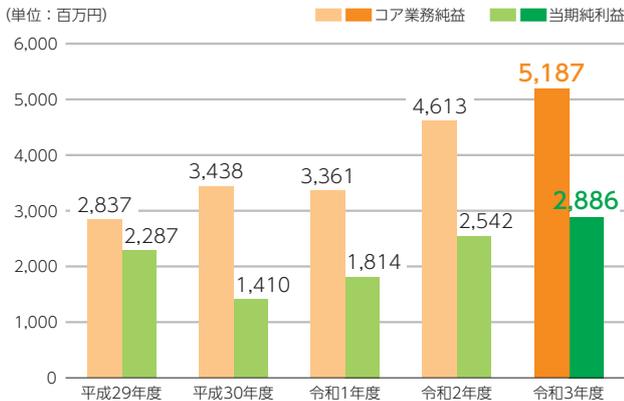
令和3年度の業績

損益の状況 ⇒ 当期純利益 28億円

コア業務純益^(※)は、経費の削減に努め5億円増加の51億円となりました。当期純利益も3億円増加の28億円となっています。

※業務純益から一時的な変動要因を除いたもので、信用金庫の本来の業務活動による収益力を表しています。

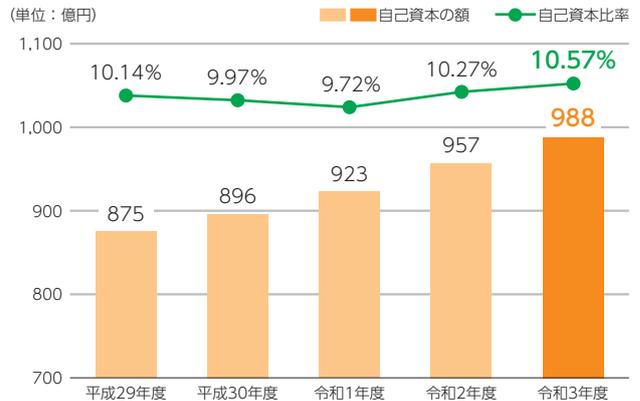
コア業務純益・当期純利益の推移



自己資本の状況 ⇒ 自己資本比率 10.57%

自己資本の額は利益による積み上げなどにより前年度比30億円増加の988億円となりました。これにより自己資本比率は10.57%となりました。引き続き、国内基準（4%）を大きく上回る健全性を維持しています。

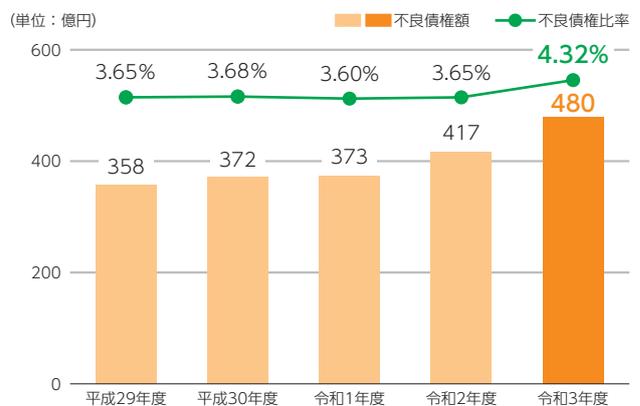
自己資本の額・自己資本比率の推移



不良債権の状況

不良債権額は前年度比62億円増加の480億円、不良債権比率は0.67ポイント上昇し4.32%となりました。なお、不良債権のうち、95.55%は担保や保証、貸倒引当金により保全されています。また、未保全部分についても、自己資本の積み上げがあり、不良債権に対する備えは万全です。

不良債権額・不良債権比率の推移



信用金庫法開示債権（リスク管理債権）および金融再生法開示債権の保全・引当状況

(単位：百万円)

	債権額 ①	保全額 ②	債権の担保・保証状況			貸倒引当金 ⑤	保全率 ②/①	引当率 ⑤/(①-③-④)
			優良担保・保証、割手等 ③	一般担保 ④				
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	令和2年度	5,653	2,842	1,845	965	100.00%	100.00%	
	令和3年度	4,716	4,716	2,880	856	979	100.00%	100.00%
危険債権	令和2年度	33,880	32,605	24,812	6,038	1,754	96.23%	57.91%
	令和3年度	40,921	39,644	31,709	6,267	1,667	96.88%	56.64%
要管理債権	令和2年度	2,265	973	-	852	121	42.98%	8.60%
	令和3年度	2,402	1,542	-	962	579	64.21%	40.27%
三月以上延滞債権	令和2年度	-	-	-	-	-	-	-
	令和3年度	-	-	-	-	-	-	-
貸出条件緩和債権	令和2年度	2,265	973	-	852	121	42.98%	8.60%
	令和3年度	2,402	1,542	-	962	579	64.21%	40.27%
不良債権合計 (A)	令和2年度	41,799	39,232	27,655	8,735	2,841	93.85%	52.53%
	令和3年度	48,039	45,903	34,590	8,086	3,226	95.55%	60.16%
正常債権	令和2年度	1,101,201						
	令和3年度	1,061,580	令和2年度 不良債権比率 (A) / (B)	令和3年度 不良債権比率 (A) / (B)				
総与信残高 (B)	令和2年度	1,143,001	3.65%	4.32%				
	令和3年度	1,109,620						

※貸倒引当金は、正常債権に対する一般貸倒引当金を除いて計上しています。